

論もまだできてないんですけども、そういう機会があれば、またそういう回遊性についても本当に議論したいなと思ってますので、またそういう機会があればよろしく願いいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。

再開を35分といたします。

〈午後3時23分 休憩〉

〈午後3時35分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、利根川 正議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。〔1番 利根川 正君登壇〕

○1番（利根川 正君）

みらい創造クラブ、利根川 正です。

1回目の質問をお願いします。

1、大糸線の存続について。

鉄道が開業して150年、また、糸魚川市においては大糸線全線開通65周年を迎えた年に、JR西日本は大糸線の存続について検討すると報道がありました。

中山間地では、鉄道は地域住民の日常生活を支える重要なものであり、産業、観光、関係人口を増やすなど、地方にとって必要不可欠な路線であります。

今回、コロナ禍の影響で、首都圏の路線の黒字で地方の路線の赤字を穴埋めする内部補助が限界に来ているため、存続、廃止を含めた議論が始まったと考えますが、今まで沿線自治体は、鉄道経営に関して実情を知らないできました。そして今回の発表となり、赤字額の大きさに驚きました。

ここで大糸線の路線の連続性が損なわれると、えちごトキめき鉄道に大きな影響が出ます。鉄道がつながっていることで利用者も多くなり、大糸線の問題だけではなく、白馬駅、南小谷駅も同じように考えなくてはなりません。また、廃止になった場合、復活できなくなり、地域交通のバスにしても、第三セクター方式、公有民営化（上下分離）方式にしても多額の補助金が必要になり、国からの十分な財政支援の確保が必要になってきます。

今回、国の関与で地方鉄道再構築協議会を設置して3年以内に対策を決めるとされ、大糸線も該当しているため沿線自治体と多くの協議の場を持ち、考えを一致させていかなければなりません。大糸線の存続を望みますし、廃線は地域の衰退につながります。これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) 大糸線を観光路線の方向へ変えていくべきだと思いますが、糸魚川市の考えを伺います。
- (2) 地域住民が大糸線を自分たちの鉄道と思い、動いてもらわなくてはなりません。地域住民との協議の場を設けることはできないか伺います。
- (3) 大糸線の魅力を全国に発信するため、大糸線地域おこし協力隊の採用結果と仕事の内容を伺います。また、今回実施した大糸線応援隊の初のミーティングの成果について伺います。
- (4) 北陸新幹線の敦賀延伸による客数を増やすため、また、海外の団体ツアーを呼び込むためにトップセールスが必要だと考えますが、市長の考えを伺います。
- (5) 鉄道ネットワーク維持の考え方（災害時の移動手段）などを踏まえ、国鉄改革の実施者である国から方向性を示してもらわなければならないと思いますが、糸魚川市の考えを伺います。
- (6) 会社側は大糸線に対して経営努力してきたのでしょうか。糸魚川市の考えを伺います。

## 2、マイナンバーカード取得の推進について。

平成27年度からスタートしたマイナンバーカード制度は、デジタル時代において市民のサービス向上と行政の効率化を実現するためのインフラであることを共有して、進めていかななくてはなりません。DX推進のスタートで意識を変えていくべき取組だと考えます。

政府は、普及状況に応じて地方交付税やデジタル関連交付金の配分額に差をつける方針を打ち出しており、カードの取得率を上げることが大切だと考えます。そのためには、現場の意見や課題を聞いて、次々と企画立案して行動していかななくてはなりません。

現時点では、令和6年秋には、紙の健康保険証の廃止、末には、運転免許証との一体化、令和7年には、在留カードとの一体化が検討されており、まずは、健康保険証のカードで保険証はもちろん診察券、お薬手帳、通院歴や受診内容、処方薬などが分かり、薬の飲み合せもチェックできるようになるなど、そのほかにもメリットがたくさんあり、アピールすべきだと思いますが、以下の項目について伺います。

- (1) 糸魚川市のマイナンバーカード取得率と目標値は、どのくらいか伺います。
- (2) 誰一人取り残さない申請体制づくりが必要ですが、どのように取り組んでいるか伺います。
- (3) 他の市町村のよい事例の横展開などを行っているか伺います。
- (4) 12月末までのマイナポイントの取得方法が分からない市民へ、どう対応しているのか伺います。
- (5) 糸魚川市の医療機関と薬局のマイナンバーカード利用状況について伺います。

## 3、地域資源を生かした新エネルギーについて。

ロシアによるウクライナ侵攻で、天然ガスや原油の輸入量の減により、エネルギー不足となり、価格が高騰している。日本国内では、クリーンエネルギーの需要が高まっている。糸魚川市でも、今後を見通した資源開発に力を入れていかななくてはなりません。第2次糸魚川市新エネルギービジョンにある、「豊かな地域資源を活かして、新エネルギーの地産地消をみんなで、目指すまち、いといがわ」の取組と方向性について、以下の点について伺います。

- (1) 持続可能な小規模木質バイオマス発電の導入について、現状を伺います。
- (2) 幅広いエネルギーの導入（まきストーブ、マイクロ水力など）に対して、補助制度の実情について伺います。

(3) 公共施設（避難所等）への太陽光発電設備の導入について、どのくらい進んでいるか伺います。

(4) 過去に調査実施済みの地熱発電、風力発電は、実現することが難しく、今後資源として点在する天然ガスの活用は考えられないか伺います。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

利根川議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、沿線自治体やJR西日本などと構成する大糸線活性化協議会において、観光利用の強化に取り組んでいるところであります。

2点目につきましては、令和元年と3年に沿線の駅ごとに住民の皆さんとの懇談会を開催しており、今後も協議の場を設けてまいります。

3点目につきましては、今月から着任し、SNSを活用した大糸線や沿線の魅力の情報発信等を担当していただくことといたしております。

また、先月20日に開催したファンミーティングには、11名の応援隊員から参加いただき、利用促進のために応援隊として取り組めることをテーマに活発な意見交換を行ったところであります。今後いただいたご意見を参考に、取組を進めてまいります。

4点目につきましては、職員が、県や近隣市町村との連携により、大阪駅での誘客イベントや台湾でのセールスに参加する予定であります。時期を捉え、他の活動の中でも、私自身セールスに参加してまいります。

5点目につきましては、ご指摘のとおり国の責務を果たすよう、県や沿線自治体と連携して、要望してまいります。

6点目につきましては、運行本数の維持や大糸線活性化協議会の一員として利用促進に取り組んでいただいているものと認識いたしております。

2番目の1点目につきましては、取得率は11月20日現在で50.59%であり、国は今年度末までに、ほぼ全国民に交付することを目標といたしております。

2点目につきましては、地区公民館、事業所等への出張申請や出前講座のほか、窓口の時間延長や休日窓口での申請対応を行っております。

3点目につきましては、マイナンバーカードの取得者に温泉クーポン券の進呈、プレミアム商品券の購入に当たり、購入枚数を増やすなどの特典を設けております。

4点目につきましては、本庁舎1階の市民ホールにおいて、マイナポイントの特設会場を設置し、また、両事務所でも申請手続を行っております。

5点目につきましては、現在21の医療機関及び薬局で、マイナンバーカードを健康保険証としてご利用いただけます。

3番目の1点目につきましては、燃料となる木質バイオマスの確保と採算性が課題となっております。

2点目につきましては、太陽光発電や熱利用、ペレットストーブ導入に対して助成をいたしており、対象の拡大についても検討いたしております。

3点目につきましては、22施設に導入しており、うち指定避難所は13施設であります。

4点目につきましては、地下資源は開発が多額となることから、活用は難しいと考えております。以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

では、2回目の質問をお願いしたいと思います。

私、この夏、8月20日に大糸線全線開通65周年記念イベントがあり、参加しました。多くのファンが詰めかけ、そこにJR西日本金沢支社長、漆原氏は、挨拶で、この秋、観光、またイベントで、糸魚川市と連携していき、広いエリアに発信していきたい。この地域の明るい将来に向けて、取り組んでいくと述べられました。

また、この11月26日、大糸線活性化協議会がえちごトキめき鉄道のリゾート列車「雪月花」を大糸線に乗り入れるツアーを実施して、各駅など、大変盛り上がりました。このように、今まで多くの議員も言っていますが、大糸線を観光路線として方向を変えていくべきだと、私は思います。

10月、11月週末、大糸線は、紅葉を見に行く観光客で座席が埋まるほどのにぎわいでした。

また、十日町では、11月13日で閉幕した十日町市大地の芸術祭の入り込み客数が、過去最多の57万人、昨年より2万6,000人増やしております。清津峡溪谷トンネルの話題が大きく、大糸線も必ずいいスポットがあると思います。

糸魚川市の観光活用には、建設産業常任委員会でも議題として取り上げました。その中で、車両を2両にして、1両は食事ができる車両、また車両の中に写真や見どころの紹介するコーナーの場所を作るとか、各駅3分間停車して、駅舎や列車、景色を撮れるように、また、車内放送では、録音でよろしいのですが、車内放送をしてあげるサービスをお客のためにしてあげるなど、これにより、大きな目玉となると考えます。JR西日本と協力して、大糸線をPRできるようにしてもらいたいと思います。

市では、今後、具体的にどのような観光路線を考えているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

人口の減少ですとか、便利なマイカーの普及、あと少子化という関係でお子さんも少なくなったということで、生活面での利用というのは本当に激減しております。やはりご指摘のような観光に軸足を置いた利用促進というのが必須です。

昔の話ですが、まだ北陸本線、大糸線という頃に、2つの路線を一緒に活性化しようというよう

な取組も北陸本線等利用促進協議会というのを立ち上げて、やっておったんですが、やっぱり観光面に軸足を移そうとすると、大糸線は大糸線でちゃんとやっていかなきゃいけない。あと糸魚川、小谷、白馬だけだとやっぱり足りないということで、大町市さん、あとＪＲを入れて、そこに両県も入れて、大糸線活性化協議会、これ平成３１年２月から活動しておりますけど、その取組で観光に重心を移した取組をやるということを方針として定めております。直後の台風からコロナ禍で、ちょっと派手な取組ができないですが、６５周年とか様々な取組も、これでやっておるものがございます。

今ほど申しましたように、ＪＲも一緒になってやっておるとというのがポイントでございまして、特に多くの皆様から大糸線に注目していただけるような取組だけではなくて、本当に乗っていただくことにつながる取組というのを計画して、沿線市で一体となって、ＪＲとも一体となって実施してまいりたいと思っております。ぜひよろしく願いいたします。

失礼します。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○１番（利根川 正君）

ぜひ単発的なイベントじゃなく、長期的に活動をしてもらいたいと思います。

次、２番の今までも地域住民、２回ほど協議の場を設けていますが、さらにその場を広げるべく大糸線観光路線のため、地域住民から聞き取りにより、埋もれている名称等、沿線沿いにあるのではないかな。また、地域のイベントと大糸線がコラボできないかなど、地域住民と連携して、活動すべきだと思います。

前回のアンケートから、状況が今年になり大きく変わってます。来年度に、また再度アンケート調査を先にしてもらい、話合いの場をつくってもらいたいのですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

市長答弁の住民の皆様との話合いに関しましては、市長も幾つかの会場に出て、直接声を聴いておるところでございます。その後も私ども、今年に入りまして３年も、今年に入りまして主に小滝地区、バスがないけど大糸線があるよというようなところに対して、ご意見を頂く場というのをつくっております。

今までの令和元年からいろいろやってきた取組の中では、リゾート列車とか企画列車とか、いろいろご提案もいただいておりますが、それ以外にも冬の間もうちょっとちゃんと動いてもらいたいとか、もう少し遅い時間帯に走ってもらえれば、夜の活動とかで使えることがあるんだよというようなご意見をいただいております。これはそういうご意見を携えて、今の取組に向かっていきたいと思っております。

あとご質問のアンケートは、ＪＲと私ども糸魚川市の活性化協議会が行っていったもので、当然、

今は乗らないけど車が運転できなくなれば乗らなきゃいけないのでとか、接続時間がやはり自分の気の利いた時間になかなかないのは公共交通の特性なんですけど、そういういろいろな声もいただいております。

議員ご指摘のように、必要に応じて今後、また沿線の皆様から声を聴いて、利用促進につなげる種を拾っていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ話し合いの場を多くつくってもらい、住民の意見を取り入れてもらいたいと思います。

次、（3）の大糸線地域おこし協力隊の力が必要となると思いますが、活動する手本として、えちごトキめき鉄道のPR活動とアイデアには、素晴らしいものがあると思います。できればコラボして、活動してもらえるようにできないかお伺いしたいんですけどいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

やはりえちごトキめき鉄道、会社全体もですし、経営されとる方の手腕というものは、恐らくは鉄道ファンのつぼにはまっとるような伝え方というのをできているんだと思います。ちょっと私がそこに理解がまだ届いていないというのも問題なんですけど、当然、情報発信に関しまして、今度、地域おこし協力隊を任用して、情報発信の部分に強化をして、取り組んでまいりますので、えちごトキめき鉄道の発信手法をまねするわけではないですが、よいところというのは大いに参考にしてもらいたいですし、そういう発信業務を担っていた経験のある人材ということで、期待もしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次に、大糸線応援隊メンバー、10月20日現在で2,477名在籍してます。今回、初ミーティングということで、大糸線を使い、姫川温泉を利用する。この企画、素晴らしい企画だと思います。今までメンバーは、市からの企画を待っていたところがありまして、今回10月20日にメールマガジンにて募集がありました。今後、大糸線応援隊のメンバーが、今回の意見を参考に、自主的に行動するようにこれからも導いてもらいたいと思いますが、いかが活動する予定ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

導くというよりは、本当に一緒になって汗かいていかならんだろうというところは、まずもつてあると思います。応援隊の皆様には、まず鉄道のファンとして自分がどういうことができるかなというところも考えてもらいたいということと、もう一個は、大糸線についてSNS等でいろいろ前向きな発信をしてくれんかということをお願いしています。

特に先日も、ある方がそういう発信をしたところ、10人、20人ぐらいぼんと増えたり、こうやって少しずつでも広がることで、まず大糸線を着目してもらって、当然それに応じた活性化みたいなのもやっていって、乗りを少しでも右肩上がりにしていくことというところが、国・県に対して私どもが大糸線の必要性を求めていくための力になるかと思っておりますので、そのためにファン、応援隊、ファンミーティングというところの活用というところがおこがましいですが、お力を借りるための活動をしていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させていただきます。

私も参加させていただきまして、そのときお集まりいただいた応援隊の皆様方におかれましては、押しなべて時間が足りない。論議する時間が足りないという話をお聞かせいただきましたし、また、ぜひまたやってほしいと。そして、またさらに数を増やしてやってほしいという意見がありまして、泊まり込みでもやろうじゃないかというような強い話を聞かせていただいて、非常に心強く思っておりますので、また早い時期にお集まりいただいて、皆さんに大糸線のこの実情を訴え、大糸線を活用していただくよう訴えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ一緒に盛り上げていきたいと思っております。

次に、4番のトップセールスの件ですが、この11月、建設産業常任委員会で軽井沢に観光産業の観点から、行政視察に行ってきました。特に今後を見据え、大阪、新幹線の開業を控えている福井観光、特に福井観光へのPRをすべきだと言っておりました。新幹線開業に伴い、福井からの観光客に山の楽しさを提案するため、それも3市町村、糸魚川市だけじゃなく、白馬、小谷と合同に、福井へトップセールスを計画してもらえませんか。また、海外も同じく、台湾、オーストラリア、ニュージーランドの冬季滞在者を狙うことも大切だと言っておりました。

ぜひ市長、先頭に立って、大糸線促進をお願いしたいと思っております。これは意見としてお願いします。

(5) 大糸線利用促進輸送強化期成同盟会の振興部会は、設置されております。地方鉄道を国主導で再構築協議会を設置して、3年以内に対策を決めると言っております。糸魚川市は、これをどのように対応するか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答え申し上げます。

今ほど議員ご説明の国主導の協議会と松本から糸魚川までの自治体、観光団体、経済団体、JR等で構成している振興部会というのは、別な任意の部会でございます。国の会議が始まりますと、全て国のほうが主導になって、3年以内というストップウォッチが押されて、どんどん、どんどん国のルールで進んでいきますので、まずはそういうところに入ってくる前に活性化をやっていこうじゃないか。活性化だけではなくて、JRがいろいろ苦しいというところのじゃあ、そういうJRのほうの言い分も少し聞いて、どういうところにじゃあ私たちが、お金とかそういう話だけではなくて、どういうところに力を入れることが必要なかというところを協議をするのが振興部会でありまして、文字にしますと持続可能な路線としての方策の検討というところを目的にしております。大糸線全体の同盟会の下部組織でございますので、私ども課長レベルで構成しまして、実につながるような取組ですとか内容を、大糸線の同盟会に上げていくというところをミッションにしております。それが活性化につながっていくというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

まず、災害の面の鉄道ネットワークの維持という面から、迂回路に当たる道路確保がないまま判断できるのかという面が1つあります。148号線と大糸線のみ地区から、最低でも松本・糸魚川の連絡道路の工事が完了して、迂回路確保で鉄路が1本、道路が2本というときに、災害時の輸送手段の話となるというのが筋だと考えますが、このような考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

現状148は、脆弱性というのは、皆さんがご承知されていることかと思えます。

ただ、松本糸魚川連絡道路というのは、今井の辺りでやっと工事やってる感の片鱗が見えてきたところで、一番難区間であるであろう小滝県境間というのは、まだルート帯を定められていない状況です。

ただ、そういうのが整えば、大糸線はという話ではなくて、当然、鉄道は人流、あとインバウン



ドの人たちの重要な移動の手段、道路は物流というふうに、2つちゃんと合わさって公共インフラという立ち位置で私たちは考えておりますし、沿線8市町村みんな同じ考えでございますので、そういうところも、JRも交えて議論を深めていこうと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次の6番目のJR西日本に対してなんですけど、JR西日本は新幹線に力を入れて、今まで地方鉄道に対して経営努力したのか。駅の無人化、新幹線のみどりの窓口の自動化、駅構内の広告、イベント、観光面の強化など、第三セクター、えちごトキめき鉄道と比べましても大きな違いが分かります。大糸線の観光PR、チラシも、JR西日本の新幹線改札口には、大糸線のチラシ自体も置けない状態です。1階の観光案内所に持って行ってくださいと言われております。

一方、えちごトキめき鉄道は、チラシ、毎回8種類ほど、正面にチラシ、掲示板しております。こちらほとんど完売するチラシとなっております。これでは大糸線の観光、イベント内容は、市民も分からないし、観光客も分かっておりません。

JR西日本は、もっと大糸線をPRすべきです。営業努力の状況が全く見えない状況です。赤字の額のみ、数字のみが独り歩きして、なぜこの数字なのか、また過去に計上をされた処理は、どのように分析するのか、これが必要だと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

市長答弁にもございましたが、逆にあれだけの赤字を抱えながら、数は少ないですが、8往復18便というのをまだずっと継続しているということも、逆に私ども、JRがやっている努力だというふうに見なさないといけないのかな、なんてことは考えております。

あと東京に新幹線で移動する機会があります。前の座席の籠のところにある西ナビには、その都度都度、糸魚川とかヒスイとか、意識的だと思います。糸魚川とか大糸線のPRをやっただいて、逆に私、あんなだけの人流の中にああいう情報を提供いただけるとするのは、市役所ですと、ちょっと逆立ちしても、金をかけてもできないような内容をやらせているというふうに、そういうふうに見ることもしなければならぬのかなというふうなことは、お伝えしたいと思います。

あと、チラシの件に関しましては、JRのPRのチラシをJRの場所に置けないという、何かちょっと変な状況ですので、それは確認させていただきます。ちょっと中身が、もうちょっと見させてください。

あと、経営状況に関しては、今年度の4月に初めて公表されたところでもありまして、これは逆に、先ほどの松本から糸魚川までの振興部会においても、費用の構造の部分に関して、詳細に説明を求めて、また皆様方のほうに機会を捉えてご説明できるかなというふうに考えております。

繰り返しになりますが、チラシの件だけは、ちょっと今少しここでお答えすることができません。以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

J R西日本さんには、PRの努力をしてもらいたいと願っております。

この大糸線の最後になるんですが、昨日の報道でJ R西日本、19年から21年度の平均収支が公表されました。大糸線は、赤字6億3,000万、100円稼ぐため、コストを示す営業係数は4,295円、18年度から20年度の3,431円から悪化しております。また、21年度の輸送密度は、前年比5人増えまして55人と発表がありました。

県の花角知事は、以前、存続・廃止の議論は頭にはなく、活性化を考える場が必要と言われてます。今後、糸魚川市、白馬村、小谷村との話合いも進んでいくと思いますが、まずはJ R西日本と話合いが大切だと考えます。意見とします。

次に、2番目のマイナンバーカードについて、ご質問します。

マイナンバーカードは、これからの時代、本人確認のルーツであり、ICチップで電子的な本人確認が可能となっているほか、ICチップの空き領域を利用して、アプリケーションの提供など、民間も含め幅広く利用可能となっています。

また、先日、政府はチケット販売にマイナンバーカードの活用を検討していると明らかにしました。これはオンラインで確実に本人確認ができるなど、さらに利便性を感じられるようにとっております。安全性を不安視する声もありますが、顔写真があり、また本人確認書類があるため、悪用には困難で、ICチップはプライバシー性の高い個人情報記録されてません。

糸魚川市においても行政の電子化・情報化の推進で、デジタル社会の基盤となることから、普及促進に努めるとともに、市自ら活用策の展開や民間サービスの連携により、利便性の向上を図ってほしいと思います。

糸魚川市の第3次総合計画の中に、地域経済でマイナンバーカードを活用した経済循環と健康ポイントとの連動など、電子地域通貨制度の導入を目指すとあります。早く市民の皆さんに理解してもらい、取得してもらうように進めるべきだと思います。10月現在、妙高市では、県内4番目の61%の取得率、糸魚川市で県内、10月ですが48.9%、半数に至っておらず、これをどのように今後進めていくか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

お答えいたします。

先ほど市長が答弁したとおり、現在50%を超える市民の皆様方からマイナンバーカードを取得していただいております。また、申請率は、既に60%を超えております。さらなる市民周知や出張申請などを継続し、ほぼ全市民がマイナンバーカードを取得していただけるよう努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次、2番目の誰一人取り残さないということで、1番は外出が難しい高齢者に対してどのような体制で進めているか、こちらを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

マイナンバーカードの申請につきましては、郵送やスマートフォンで申請も可能でございます。

ただ、カードの受け取りにつきましては、原則、ご本人様から市役所にお越しいただくこととなります。ですが、どうしても外出が困難で、市役所にお越しいただけない場合は、必要書類をご用意いただき、代理人がカードを受け取るという制度もございますので、この取扱いについて、さらなる市民周知を行ってまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

今の内容をお知らせばん等を入れてもらって、外出が難しい方に連絡取れるようにしてもらいたいと思います。

次に、他の市町村のよい事例の横展開ですが、糸魚川市で、先ほど言われました温泉のクーポン券があるということであれなんですが、他の市町の事例ですが、上越市では、受取り専用窓口の開設を、月曜から金曜まで夕方の6時45分まで開いており、また、土日、祭日は、午後4時半まで窓口を開けている、今状態です。

また、ちょっと遠くなりますが、宮崎県都市は、10月時点で86%、全国1位の取得率になっております。こちらは、市がタブレットを使い写真撮影、そのままオンラインで申請、サポートし、対面でのカード申請の不安の解消など、こちらは都城方式と呼ばれ、他の自治体もまねをして展開されているところです。特に出張申請を行い、1人でも自宅に伺う。そのために専用の車「マイナちゃんカー」に乗って、動き回っているということです。

また、企業、公民館、病院、ハローワーク、イベント会場など、人のいるところへ出向いていく体制ができていると。こちら糸魚川でも、ぜひ取り入れてもらいたいですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

当市におきましても、毎週木曜日に窓口の延長と毎月第4土曜日の休日に窓口の対応を行っております。今後この回数を増やしていきたいというふうに考えております。

また、出張申請につきましては、市内の事業所等に文書でご案内しておりますが、コロナ禍でもあり、申込みがなかなか伸びない状況でございます。今年度は、出張申請と出前講座を19回開催しておりますが、今後も積極的に出張申請等を取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ1人でも多く進めてもらいたいと思います。

次に、4番のマイナポイントです。これは国も多額の金額を投じていますが、マイナポイントの第1弾の目的は、消費税増税の反動減対策であり、第2弾は、景気刺激策のポイントを与え、同時に普及や利用登録の促進を図ったものです。ポイントありきではないということです。今、2万円のポイントがついておりますが、こちらは12月末までのカード申請が対象で、そして、ポイントの給付は、申請期限は来年の2月28日までになっております。せっかくもらえるポイントなので、もっと周知して進められないか伺いたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

マイナポイントにつきましては、議員がおっしゃるとおり、期限が迫ってきております。市のLINE等を用いて、さらなる周知を行いまして、より多くの市民の皆様方からポイントを取得いただけるよう進めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひこちらは、デジタル関連の交付金が申請率によって変わるということで、市を挙げて取り組んでもらいたいと思います。

次に、3の地域エネルギーに移りたいと思います。

11月の市民厚生常任委員会で、自治体新電力会社の設立の可能性調査の電力市場で、高騰しているため、当面自治体新電力会社設立は望ましくないという判断がしております。そして、今後の取組について、省エネルギーを中心に推進していくとされました。（1）のバイオマス発電で、今後、糸魚川の資源の地域材を利用促進、小規模な木質バイオマス発電が今後あれば、林業を支える担い手の確保ができ、植林、また先ほど言った、ほかの議員も言うておりましたが、自伐型の林業、また間伐と供給体制の構築ができます。山を抱える糸魚川市としては、循環ができる活動だと思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

地域内で循環ができる、また促すというところで、バイオマス発電の導入につきましては、林業の面からも大変有効な取組というふうに考えております。課題は、市長答弁のほうにもありましたが、コストというところがございます。発電設備の適正な規模も含めまして、電気を作るのにどのくらいのお金がかかるのかな。作った電気や熱はどのように使っていくのかなというところも含めまして、こういったものを課題を解決していく必要があるのではというふうに考えております。

こういったところをしっかりと情報収集をしながら、もうしばらく検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ検討のほうをお願いしたいと思います。

（2）の幅広いエネルギーということで、住宅建材の地産利用や省エネ対策として、今、ゼロ・エネルギー・ハウス、ZEHの推進、そして、室内暖房にまきストーブがあり、電力はマイクロ水力、太陽光で発電する循環型エネルギーと考えられます。利用価値、資源の面からも、昔のようにまきをもっと活用すべきだと思います。まきストーブやまき、それから改装費に補助金制度を設け、もっと推進すべきだと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

糸魚川の豊富な森林資源を活用するといった面から、また、さらにその用途を幅を広げるというところから、まきストーブの活用というところも1つの方法であろうかというふうに考えております。どうしてもストーブということになりますと、臭いだとか煙だとかが出てまいりますので、そういったところを少し課題と認識しながら、こういった新たな取組につきましても、しっかりと検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

まきストーブ、中山間地が主になると思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、マイクロ水力発電で、糸魚川市でとにかく試験的に実施してもらおう取組が大切だと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

今年、中小水力発電の新たな取組分野として、マイクロ水力発電を中心とした懇談会を開催したところでございます。その中で導入実績の紹介などがありましたけども、やはりその中で課題と私ども感じたことは、コストがやはりかかるものということが1つ。また、参加者の皆さんもそうですけども、やはり身近に感じていただくことが必要だなというふうに感じたところであります。

なかなか市として新たなマイクロ水力をというところは難しいと考えておりますが、当市にある3か所、マイクロ水力発電をやっておりますので、そういったところも少し工夫しながら紹介するということも含めまして、検討していく必要があるかなというふうに感じているところであります。今後、しっかりとそういった面、進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ検討のほうをお願いして、1か所でも進めてもらいたいと思います。

次に、3番の公共施設の避難所は、非常時、電源が要ると思います。現在のところ、先ほど太陽光発電で22か所と聞きましたが、その太陽光発電で、非常時どのぐらい耐えられるのか。また、ほかの電源確保はあるのか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

お答えします。

先ほど市長答弁にもありましたが、現在、避難所で太陽光発電を導入しておりますのは13施設でございます。現在のところは、太陽光で発電した電力につきましては、それぞれ施設内で容量、自家消費分として使っているという状況であります。

したがって、災害時、特に夜になれば全く太陽光発電ということになりますので、使えないという状況であります。このために、現在21の公民館等に蓄電池を配置しております。この蓄電池によりまして、フル充電で大体スマホ約50台分が賄えるというようなことになっておりますので、そういったものをしっかり太陽光発電、ほかに今そういった蓄電池を使いながら災害時の対応としたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

21か所と言わず、かなり避難所はあると思いますので、全部に配備するようお願いしたいと思います。

次に、（4）天然ガスの件なんですけども、天然ガス、ちょっと種類もいろいろ違う、また、採掘方法も違う。ですけども、県下にはかなり多くあります。糸魚川で調査する価値があると思いますが、こちらはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

天然ガスの埋蔵につきましては、私どものほうでもまだしっかりとした情報を持っておりません。したがって、これから文献や民間事業者の情報を、特に実施となりますと民間事業者さんが動くというところも可能性としては高いというふうに考えておりますので、そういったところ、可能な範囲で私ども把握に努めたいというふうに考えております。

したがって、現在のところは、市で大きなお金をかけて、ボーリング等の調査というところは検討も少し、今の調査を終えてからの検討にさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

検討のほうよろしくお願ひしたいと思います。

最後になりますが、明るい話として、太陽光発電で、2年後ぐらいにフィルム型太陽電池が発売されるという報道がありました。設置場所は、制約が少なく、建物の壁や窓にも設置でき、また、曇りや室内光でも発電するなど、今後期待したいと思います。

糸魚川市においては、今後10年、20年を見据えたエネルギーを考えていかななくてはならないと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、利根川議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

本日は、これにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後4時29分 延会〉